

3 エクセター

- ドクターの聡明な妻は
カシの樹の下にすわっていた
大聖堂の鐘が塀越しに鳴り響いても
彼女の耳には聞こえなかった
開いた本の上で 木の葉の影絵が舞っていた 5
オールダス・ハクスリーの本を読んでいたのだ
- かつてはその鐘が エクセター大聖堂の鐘が鳴ると
主をたたえ 祈りを捧げるために
ピンクがかったアカシアが陰をつくる塀沿いを歩いて
彼女は一日に何度となく 10
聖人ウルフリックの祭壇幕が掛かっている場所に向かったものだ
そこでは 聖歌隊がイ調スタンフォード・ミサ曲を歌っていた
- 診療所のドアをボタンと閉めて
ドクターは小型のモリスに飛び乗る
車をぶつけクラクションを鳴らし コレットン・クレッセント通りを疾走する 15
ほかの車は皆 呆然と見送る
庶民には小さな乗り合いバスが安全というものだ
やがて チンチン電車が走る時代がやっては来たが
- ドクターは 表玄関の大きな扉から運び込まれた
なんと 死に顔が笑っている 20
食堂のテーブルの上に寝かされる
バイスタンダー誌がいつも広げられていた場所
タトラーやスケッチやバイスタンダーなどの週刊誌は
聖堂参事会員の奥さん方の大切な読み物だった
- 今もその鐘が エクセター大聖堂の鐘が鳴ると 25
主をたたえ 祈りを捧げるために
ピンクがかったアカシアが陰をつくる塀沿いを歩いて
彼女は一日に何度となく

聖人ウルフリックの祭壇幕が掛かっている場所に向かう

そこでは 聖歌隊がイ調スタンフォード・ミサ曲を歌っている

30

(山中光義訳)